

海井勝軍 かいせいかつとむ キリスト教社會運動家、音楽家、神代・ユダヤ問題
研究家。明治七年二月十五日山形縣南村山郡上の山生れ、昭和十五年
七月八日没（八七四—一九〇〇）。幼名勇吉。筆名梅鷺林、神戸誠。明治一
十年山形英學校入學と翌年退學。モールより受洗して一致教會會員と
なる。二十二年勝軍と改名し、仙臺神學校入學。二十五年木村重松、
島貫兵、大木等と東北救世軍を結成して東北三縣傳道に赴き、翌年藤生
金六と共に勵會を興す。二十七年東北學院普通科卒業後上京、詩雜誌、
新聞の音楽論を執筆、傍ら貧民救済、傳道に携はる。翌年可安恵百學
校新聞『キ』創刊し、二十九年『救世』編輯員となる。二十一年外遊、
サンフランシスコ日本基督教青年會教育主任となり、シカゴ音楽大學
に學ぶなどして二十五年歸朝。翌年東京唱歌學校を設立した他、平木
白星作歌の向う作曲した『處世之詩』（明治二十六年三月十日太平洋
館）を出版、また『英詩朗吟法』（明治二十六年二月）『十六日太平洋
館』、『英詩語陽歌集』（第一編、第二編、第三編、明治二十六年七月
八日上田屋書店）、『教育の音楽』（明治二十九年八月十六日警醒社
書店）等々著はす。

二十七年大本營附外國從軍武官接伴掛として日露戦役の從軍、翌年凱
旋して敎勳（勳二等單光旭日章）。二十九年雜誌『讚美之友』を創刊
（のち『ゴシオン』と改題）し、讚美敎勵團を創設（のち日本讚美團、
更に國教宣明團と改稱）した。大正七年滿洲派遣軍の從軍、十一年歸
還して勳五等双光旭日章を受く。昭和七年日滿協會を、十一年神祕之
日本社を創設、機關誌『神祕之日本』を創刊（全四十四冊。復刻版・
全五卷、別冊『神祕之日本追悼号』附・解説篇）昭和五十七年九月二

十日八幡書店)した。

他に、『上記鈔譯』全二冊(大友能直原輯・吉良義風鈔譯、前篇・昭和十三年六月一日、後篇・七月二十五日國教宣明團)を編輯出版、
モルトン・エドガア著『ピラミッドの正體』(昭和十年五月二十日吉
川弘文館)を翻譯、また、『猶太人の世界征略運動』(大正十二年二月
十五日内外書房)、『世界の正體と猶太人』(大正十二年四月二十五
日内外書房)、『進んぐ〇〇を敵とすべし』(大正十二年五月十五日
大正書院)、『神州天子國』(昭和二年十月二十五日萬世閣書房)、
『世界之新政權』(昭和十五年五月二十八日國教宣明團)等多數の著
書がある。

